

台湾からの留学生との交流

3月30日（金）

昨年8月から1年の予定で台湾から日本各地の高校へ派遣されている留学生15名が、研修の一環として本校復興研究会と交流しました。



留学生の皆さんが地図をもとに自己紹介と出身地の特色の説明を行いました。

その後、2名の代表がそれぞれ台湾の風土と歴史についてと台湾の震災の歴史について、プレゼンテーションを行いました。

来日してまだ半年とのことですが、みなさん日本語が上手でびっくり。本校生徒は、挨拶などの簡単な中国語を教えてもらい、場の雰囲気が一気に和らぎました。



本校生徒も自己紹介を行い、震災と大槌高校復興研究会の活動についてプレゼンテーションを行いました。

その後、バスで町内を巡り、震災からの復興の様子を自分たちの目で確認してもらいました。

国が違ってても高校生の興味・関心は同じ。移動のバスの中では、部活動や趣味、休日はどうやって過ごしているかなど、話題で盛り上がっていました。



学校へ戻り、討論会。「震災の記憶を後世にどう伝えるか。」「復興のために自分は何ができるか。」難しい議題ですが、熱心に意見交換をしていました。

最後は折り紙講座。蓮の折り紙を一緒に作りました。本校生徒は手助けができるよう事前に何度も練習して備えていました。



そして別れの時。せっかく打ち解けたのに時間はあっという間に過ぎてしまいました。
別れを惜しみながら、今後の台湾と日本の友好を誓い合いました。

